慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.1 (1960. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600101--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

昭和三十五年一月一日発行（毎月一日発行）
昭和二十六年二月十三日国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和二十五年十月二十四日第三種郵便物認可

三田學會雜誌

慶應義塾経済学会

一月号

第五十三巻　第一号

論説

インドの国際収支の型の変化について……矢内原勝（一）
賃金変動と就業構造（一）……尾崎巌（三四）
——賃金最低水準の成立過程と零細自営業主及び家族従業者群の存立条件——

資料

一九〇五—一九〇七年の第一次ロシア革命のドイツに及ぼした影響……飯田鼎（六四）
——ドイツ社会運動史にかんする最近の資料（三の一）——
ウィリアム・ゴドウィン研究文献（二）……白井厚（八五）

書評及び紹介

経済学関係文献目録

書評及び紹介

ハイマン・カプリン編著
『明治労働運動史の一齣――高野房太郎の生涯と思想――』……飯田鼎（一四）

A・B・コール
「日本中小企業の政治動向」……佐藤芳雄（一九）

R・ケブナー
『アダム・スミスと産業革命』……渡邊國廣（一一〇）

インドの国際収支の型の変化について

矢内原勝

1 資料
2 重商主義・自由主義時代
3 十九世紀中葉以降の国際収支の傾向
4 国際収支の問題点
a 商品貿易の輸出超過
b 金の移動
c 本国費
d 外国資本
5 ポンド債の送還と残高の消費
6 結論

1 資料

一般に、一国の外国貿易を検討するためには、全般的な国際収支のほかに、少なくても「見える」（商品）貿易と「見えない」貿易の輸出入の構成、資本勘定についても同じようにその構成、さらに輸出入の相手国別の分析が必要である。インドの十九世紀後半から第二次大戦前までの外国貿易の傾向の特徴として、輸出のなかの原材料と、輸入のなかの製造品の優越と、輸入に対する輸出超過の着実な上昇の二つが指摘されていた。[1] しかしこれはインドの外国貿易の一時期の特徴であって、このような特徴によって表現されている外国貿易の型自体が、時代とともに、もっと適切にいえばその国の経済発展を反映して変化する。そしてインドの外国貿易を考えるときは、インドが英国の典型的な植民地であったことに、基本的な特徴を求めなければならないだろう。インドの国際収支の型は植民本国である英国の国際収支の型の対応であり、インドの国際収支の型の変化は英国の国際収支、またはその経済的発展に対応した変化であるはずである。[2]

帝国主義論によれば、植民地は本国にとって原料取得市場、商品販売市場、投資市場の役割を歴史的に順次に果してゆく。この段階の経過は本国の商業資本主義、産業資本主義、金融資本主義の段階